
東京デストロイ。

syi.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東京デストロイ。

【Nコード】

N5363U

【作者名】

S y i .

【あらすじ】

201X年。社会になかなか認めてもらえないカルチャーをこよなく愛す少年たち。周囲の人間には「ミスフィッツ（はみだし者）」と呼ばれていた。そんなミスフィッツの1人、バッドはスケボー好きな18歳の専門学校生。彼と個性溢れる仲間たちが創り出す、創造的かつ破壊的な日常を描く青春ストーリー。

僕は急いでいた。

人の群れを掻き分け南口の階段を一心不乱に駆け上がる。
階段の先に見える狭い空は目が痛いほど青い。今日は天気がいい。

息をきらしながら地上に出ると、やはり予想通りの灼熱地獄ヒートアイランドが広がっていた。

「ファック！」

僕は小さくそう呟くと左手に持つスケートボードを足元に降ろした。
隣にいる頭の固そうなTHEサラリーマンの視線を感じる。

2

深呼吸。息を整え左足をデッキに乗せる。
そして右足を大きく振り上げ灼熱のアスファルトをありったけ強く蹴りつけた。

幸い今日はいつもよりも人が少ない。

前後にバランスをとりながら僕は先週買ったSTUSSYのメッシュ
ユキヤップを被りなおした。
ふと左手を見るとNIXONの腕時計はカクカクした文字で 11:
30 を伝えている。

「オーマイガッ！！！」

完全に日本語と化したENGLISHは生暖かい空気にさらわれていった。

僕はバッド。B・A・Dでバッド。

某服飾専門学校に通う18歳だ。

別に自分で好き好んでこんな英語の名前を名乗っているわけではない。

「調子に乗っているわけではない。」

高校時代の友人に名づけられたのだ。

そしていつのまにか当たり前のように僕はバッドだったのだ。

そんなバッドは今かなりBADな状態に置かれている。

今日は火曜日。1限から授業だ。

1限は 9：30 には始まる。

そう。2時間。今の時点で2時間も遅れてしまっている。

きつと今頃皆は涼しい教室でミシンを踏んでいることだろう。

それなのに僕はこの燃えるような大都会の真ん中で必死にスケボー

に乗っている。

学校までは駅からほんの5分ほどの距離なのに暑さのせいで無限の距離を感じた。

「ファック!!」

つい本日2度目のファックが口から飛び出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5363u/>

東京デストロイ。

2011年10月9日09時22分発行